

9月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

毎年9月は身体と車の点検がある。なぜか身体より車の点検の方がお金がかかる。今年
は車のマフラーに異常が見つかり、車検料金とマフラーの交換料金で多大なる出費を強い
られた。しかし、苦あれば楽あり。胃カメラで珍しく細胞診検査がなく、しばらくの間ガ
ン恐怖から逃れることができた。

色々な競技のワールドカップが開催。世界は広い、東京五輪が近い、わが人生は短い。

1・テレビから

◆「南アフリカ戦の後、負けたのにも関わらず一番に南アフリカの方が日本の陣地まで来
てたたえてくれた。はしゃいでいた自分たちが非常に恥ずかしく思った。勝った負けただ
けの世界ではなく、彼らが何をしようとしているのか、なにを成し遂げようとしているの
か、みんなが追い求めてほしい」〈NHKスペシャル「ワールドカップ2019」〉

負けても評価されるチームというのは、このようなスポーツパーソンシップの精神にあ
ふれているチーム。比較対象は「今までの自分」。今までの自分よりも少しでも成長する。

2・新聞、雑誌のコラム等から

◆「北斎は少年時代の原点を忘れなかった。研鑽を積みつつも決して自分の技量に満足す
ることがなかった。いつも灼けるような焦燥感を抱いていた。そして壮年期を過ぎてから
自らの最盛期を創出した。最晩年にはこんな風に言って息を引き取ったという。“天我を
して五年の命を保たしめば、真正の画工となるを得べし”」〈朝日・福岡伸一の動的平衡〉
50年以上バスケットボールに取り組んできた。まだまだわからないことが次から次へと。
これからこそもっと何かをやらなければならない。Never too late. ◆「あ
らゆることを勉強して一つのを完成したというのが、本当の専門家だ」〈朝日・折々
のことば・三波春夫〉かの国民的大歌手は読書、オペラ、京劇、歌舞伎、さらに歴史に学
んだことが自分の芸を鍛えてくれたという。今は「千門家」じゃなくて「一門家」が多い。
一つのことしかより、多くから学び、専門分野に栄養を与えることが道を極める。

◆「他の人になくてね、伯父さんに有り余るもの、それは暇だよ」〈朝日・フーテンの寅
さん〉今忙しさに振り回されている世の中で、映画『男はつらいよ』のフーテンの寅さん
が注目されているという。私にもお金と筋肉は無くなってきたが暇だけは増えてきている。
高齢者が不安になるような情報が続々発表されるが、暇を大切にしていって棺桶まで持って行く。

◆「自分のために一生懸命になってくれるひとがいるって、しあわせだよ、ほんとうに」
〈朝日・折々のことば・重松清〉バスケットボールをがんばっている多くの子どもたち
に伝えていきたい。君たちのために親御さん、コーチがどれほどがんばってくれているか。
そして親、コーチのために子どもたちがどれだけがんばってくれているかも同じ。

◆「勝てたのは、諦めずキックを追いかけ、こぼれ球へ体を投げ出し、五分五分の機会を
ことごとくものにしたら。 “楯円球は努力した方に転がる” という格言を、まさに体現
していた」〈朝日・ラグビーW杯・ウルグアイが番狂わせ〉バスケットボールのゲームで
もリバウンドボール、ルーズボールなどが、決まったように同じチーム側に奪取される場
面がある。試合までに努力した方にバスケの神様が与えてくれたのだろう。